

第117回理事会を開催

平成26年3月19日、一般社団法人電池工業会第117回理事会が機械振興会館で開催された。定款に基づき依田誠会長（株式会社GSユアサ）が議長となり、第1号議案から第5号議案まで審議され、提出された議案は、保留となった第3号議案を除き可決承認された。また、報告事項についての確認がなされた。



1. 議案

(1) 第1号議案 平成26年度事業計画(案)の審議

各部長または事務局担当部長より、配布資料に基づき平成26年度の事業計画（案）の説明がなされた。

審議の結果、第1号議案は原案どおり承認可決された。

(2) 第2号議案 平成26年度事業予算(案)の審議

経理担当部長より、配布資料に基づき平成26年度事業予算（案）について説明がなされた。

審議の結果、第2号議案は資料をよりわかりやすく修正することなどを条件に、原案どおり承認可決された。

(3) 第3号議案 統計業務の進め方についての審議

統計合同委員会委員長より、配布資料に基づき今後の統計業務の進め方について説明がなされた。

審議の結果、役員から弁護士にも相談すべきとの意見が提示され、第3号議案は保留となった。

(4) 第4号議案 会員入会の審議（賛助会員5社）

事務局長より配布資料に基づき賛助会員候補5社の入会申請について説明がなされた。

審議の結果、下記の5社について平成26年4月1日付にて入会することが承認可決された。

(賛助会員の入会)

(敬称略)

会員名	会員代表者	事業内容
BASF株式会社 ジャパン株式会社	ヨルグ・クリスチャン・シュテック (代表取締役社長)	化学薬品(電池用材料を含む)および農薬等の製造・販売
エレコム株式会社	はだ じゅんじ 葉田 順治 (代表取締役社長)	パソコン関連製品からデジタル機器関連製品(携帯電話用充電器等)まで設計・製造・販売
住友電気工業株式会社	まつもと まさよし 松本 正義 (代表取締役社長)	自動車関連事業、情報通信関連事業、 エレクトロニクス関連事業、環境エネルギー関連事業、 産業素材関連事業(レドックスフロー電池)(熔融塩電池)
株式会社カネカ	すがわら きみかず 菅原 公一 (代表取締役社長)	化成品、機能性樹脂、発泡樹脂製品、食品、医薬品、医療機器、電子材料、合成繊維等化学製品の製造、販売
エフエムシー・ ケミカルズ株式会社	さとう まなぶ 佐藤 学 (アジアコマーシャルディレクター)	リチウム原料、リチウムイオン電池用材料の製造・販売

(5) 第5号議案 工業会規程改正案の審議

事務局長より配布資料に基づき、当工業会規程の改正案についての説明がなされた。審議の結果、第5号議案は原案どおり承認可決された。

2. 報告事項

専務理事より配布資料に基づき報告事項の説明がなされた。

(1) 理事辞任の件

平成25年6月19日付けにて下記の理事より辞任届が出された旨報告した。

- ・NECエナジーデバイス株式会社 代表取締役社長
さとう まもる
佐藤 護 氏

(2) 職務執行状況の件

会長、副会長及び専務理事の職務執行状況の報告を行った。

(3) 会員退会の件

下記の会員について退会した旨報告された。

(正会員)

(敬称略)

会員名	退会年月日
三菱重工業株式会社	H26.3.31

(賛助会員)

(敬称略)

会員名	退会年月日
アオイ株式会社	H25.12.31

(4) 会員名称変更の件

下記の会員について、会員名称の変更の報告を行った。

区分	会員名	会員代表者	変更年月日
新	株式会社サムスン 日本研究所	まつうら ひでお 松浦 英夫 (代表取締役社長)	H25.1.1
旧	株式会社サムスン 横浜研究所	松浦 英夫	
新	横河ソリューション サービス株式会社	なかしま よしひで 中島 嘉秀 (執行役員 第4営業本部長)	H25.4.1
旧	横河電機 株式会社	中島 嘉秀	
新	スペクトラムブランズ ジャパン株式会社	エリック・ブーカボーン (代表取締役)	H25.12.1
旧	テトラジャパン 株式会社	エリック・ブーカボーン	



(5) 会員代表者変更の件

下記の会員について、事務局より代表者の変更があった旨報告された。

(正会員)

会員名	新会員代表者	旧会員代表	変更年月日
三菱重工業株式会社	とだ かつひこ 戸田 克彦 (リチウム二次電池室長)	栗原 幹	H25.5.1
NEC エナジーデバイス株式会社	さわむら はるみち 澤村 治道 (代表取締役社長)	佐藤 護	H25.6.19
ソニー株式会社	えつれ よしと 江連 淑人 (デバイスソリューション事業本部 エナジー事業部長)	種茂 慎一	H26.2.1

(賛助会員)

会員名	新会員代表者	旧会員代表	変更年月日
電気化学工業株式会社	すぎやま しんじ 杵山 信二 (常務取締役)	小野 健一	H25.4.1
株式会社キャプテックス	さかのうえ だいへい 坂之上 大平 (代表取締役社長)	朝倉 研二	H25.4.1
株式会社メタルドウ	やまつら としひこ 山頼 俊彦 (代表取締役)	藤田 國廣	H25.5.17
日本電工株式会社	みやもと まさみち 宮本 正道 (電池材料営業部長)	鈴木 保雄	H25.5.28
本多電機株式会社	あおき としみつ 青木 敏光 (代表取締役)	宮田 康二	H25.6.21

会員名	新会員代表者	旧会員代表	変更年月日
新日本工業株式会社	たにわき ひろのり 谷脇 博則 (代表取締役)	野々口 博	H25.6.26
かがつう株式会社	のざき のぶはる 野崎 信春 (代表取締役社長)	野崎 雅暉	H25.7.1
テトラジャパン株式会社	エリック・ブーカボーン (代表取締役)	茶園 章二	H25.7.1
東洋鋼鈹株式会社	いとふじ かずお 糸藤 和夫 (薄板・建装営業部長)	田中 和夫	H25.7.5
宮川化成工業株式会社	みやがわ しんご 宮川 慎吾 (代表取締役社長)	宮川征四郎	H25.8.21
株式会社初田製作所	さとう じゅんや 佐藤 淳也 (商品開発部長)	初田 和弘	H25.9.1
株式会社リコー・研究開発本部	さかうえ よしのり 坂上 好功 (副本部長)	北口 貴史	H25.9.1
日本板硝子株式会社・高機能ガラス事業部門 ファンクショナルプロセスセパレーター統括部長	にしかわ ひろし 西川 宏 (バッテリー)	川崎 正則	25.11.8
ユミコアジャパン株式会社	アンドレアス・ティフェンバッハー (代表取締役社長)	ルック・ゲレンス	H26. 1.1

(6) 事務局職員交代の件

帰任出向職員2名、着任出向職員1名と入会専従職員1名の紹介を行った。

以上



空気湿電池

今回は空気湿電池を取り上げます。空気中の酸素を減極剤として利用する試みは1800年代から行われていましたが、これを電池として実用化を成功させたのはフランスのフェリーで、1917年（大正6年）のことでした。空気電池には、ドライタイプとウェットタイプのものがありましたがこれはウェットタイプのものでした。

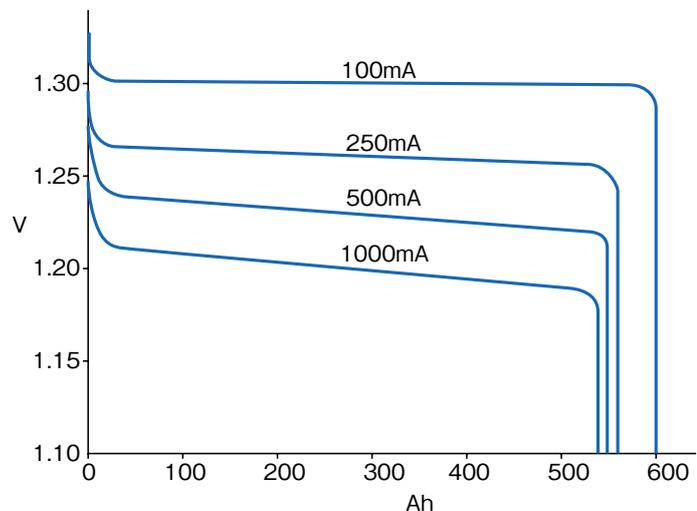
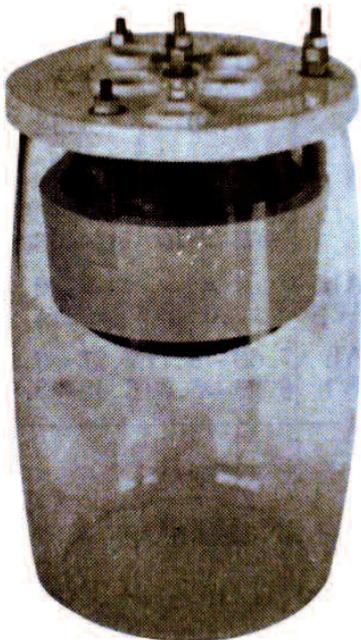
フェリーの電池は、正極に炭素（正確には酸素が正極材料で、炭素は触媒であり、集電体）、負極に亜鉛、電解液として塩化アンモニウムを使用していました。1924年には電解液に苛性ソーダを使用するものがニベルグに依って発表され、この2種の電池が改良されて実用化されました。

日本では、1935年（昭和10年）に古河電気工業（現古河電池）が販売してから松下電器産業（現パナソニック）及び日本電池（現GSユアサ）が生産を始めました。

空気湿電池の特長は、長所としては①放電時の電圧変動が少ない。②温度変化に強く、寒いところや暑いところでも使用できる。③容量が大きい。④構造が簡単で取扱いが容易である。⑤使用中の自己放電が少なく、長期の使用に耐える、などがあげられます。短所は①高負荷放電ができない。②移動、携帯ができないなどでした。

用途は、日本では電磁石式電話交換機用、鉄道踏切警報機の軌道回路用、ロボット雨量計用など、米国では鉄道信号用などで、用途によって構造や外装が異なっていました。大きさは、写真のAWS-500で、直径180mm、高さ315mmです。

しかし、用途が限定されていたこと、技術面での進歩が少なかったこと、その後これらの用途もなくなり、JIS規格も1951年になくなりました。



放電電流と容量の関係 (AWS-500)

GSユアサ、鉛蓄電池で「IEEE マイルストーン」に認定

～ 電池産業の発展・普及に貢献 ～

株式会社 GSユアサ

株式会社 GSユアサ（社長：依田 誠、本社：京都市南区。以下、GSユアサ）は、2014年4月12日、電子・電気・情報・通信技術の分野における世界最大の学会であるIEEE*（アイ・トリプル・イー）が「IEEE マイルストーン」に認定した『日本の一次電池、二次電池産業の誕生と成長、1893』において、鉛蓄電池の分野での貢献を評価され、GSユアサとして初めての認定を受けました。

「IEEE マイルストーン」は、電気・電子・情報・通信分野において達成されたイノベーションの中で、開発から25年以上経過し、地域社会や産業の発展に多大な貢献をした歴史的偉業を称える表彰制度です。優れた技術成果とそれを生み出した技術者に対する社会一般の理解と評価を高めることを目的に1983年に設けられ、これまでに世界で137件、日本では18件が認定されています。

GSユアサは、1895年に島津源蔵が日本で初めて鉛蓄電池の試作に成功して以来、鉛蓄電池の大容量化に努め、1919年に発明した「鉛粉製造法」により鉛蓄電池の製造技術の進歩に貢献してきました。その後、島津源蔵が1917年に設立した日本電池、湯浅七左衛門が1918年に設立した湯浅蓄電池製造所（後のユアサコーポレーション）の両社が製造する高性能鉛蓄電池はモータリゼーションのみならず、社会のインフラに大きく寄与してきました。

日本電池、ユアサ コーポレーションの2社が経営統合してGSユアサとなった現在も、当社が製造する鉛蓄電池やリチウムイオン電池をはじめとする様々な二次電池が、広く社会で活躍しています。

GSユアサグループは、長年培ってきたエネルギー技術で、今後も人々の安心・快適な生活に貢献してまいります。

※IEEE（正式名称:The Institute of Electrical and Electronics Engineers,inc.）

1963年に創設された米国に本部を置く世界最大の電気・電子技術者の学会組織で、世界160ヶ国以上に40万人以上の会員を擁する非営利団体。IEEEは、コンピューター、バイオ、通信、電力、航空、電子等の技術分野で指導的な役割を担い、IEEEの定めた標準規格の多くが、ISO(国際標準化機構)により国際標準として採用されています。

【マイルストーン認定について】

タイトル: 「日本の一次・二次電池産業の誕生と成長、1893」

認定理由: 合資会社屋井乾電池は1893年に屋井電池発明特許を取得し、日本の乾電池産業を誕生させ、その発展に貢献した。この偉業を次いで、株式会社 GSユアサとパナソニック株式会社は、産業機器および家電製品に搭載する一次・二次電池の巨大市場を開拓し、日本の電池産業および家電産業を発展させた。

認定対象: 合資会社屋井乾電池(当時)「乾電池の発明」
株式会社 GSユアサ「鉛蓄電池」
パナソニック株式会社「乾電池」、「リチウム一次電池」、「ニカド電池」

【当日の様子】



創業期（1920年代）の自動車用鉛蓄電池
（左）日本電池の製品 （右）湯浅蓄電池製造所の製品

贈呈式の様子
（左）GSユアサ 依田社長 （右）Dr. Staecker前会長

【GSユアサの歴史】

年号	GSユアサ 鉛蓄電池の歴史	
1895年	島津源蔵、日本で初めて鉛蓄電池を製造	GS
1912年	蓄電池工場（新町今出川）建設	GS
1915年	初代湯浅七左衛門、大阪府和泉北郡（現堺市）の湯浅鉄工所内に湯浅蓄電池製造所を設け、蓄電池の生産に着手	YUASA
1917年	島津源蔵、日本電池（株）を設立	GS
1918年	湯浅七左衛門、湯浅蓄電池製造所を設立	YUASA
1919年	島津源蔵、「鉛粉製造法」を発明	GS
1920年	自動車用鉛蓄電池の生産開始、据置電池用チュードル式極板も完成	GS
1921年	ペースト式電気機関車用蓄電池の開発・販売	YUASA
1926年	ラジオ電池のOEM生産開始	GS
1952年	電動車用ウルトラクラッド式極板の開発・販売	YUASA
1954年	ファイバークラッド式蓄電池、ポリクラッド式蓄電池、エバノード式蓄電池の発売	GS
1962年	無漏液形鉛電池の「ゲル式蓄電池」を開発、形状・寸法・電圧・容量などが小形密閉鉛蓄電池の世界的標準モデルとなる	GS
1965年	密閉形鉛蓄電池（シール鉛蓄電池）の開発・販売	YUASA
1969年	本社自動車電池新工場建設（西大路）	GS
1983年	据置用密閉形鉛蓄電池の開発・販売	GS YUASA
1983年	オートバイ用密閉形鉛蓄電池の開発・販売	YUASA
1985年	トヨタ自動車と共同開発で自動車電池として世界初の密閉形鉛蓄電池を開発・販売	GS
2004年	日本電池（株）と（株）ユアサコーポレーションが経営統合して（株）ジーエス・ユアサ コーポレーションを設立	GS YUASA
2009年	アイドリングストップ車用鉛蓄電池の開発・販売	GS YUASA

【この件に関する報道関係からのお問い合わせ先】
株式会社 GSユアサ 広報・IR室 TEL 075-312-1214

世界最大の技術専門家組織「米国電気電子学会」が電池産業発展に寄与した功績を評価 乾電池、リチウム一次電池、ニカド電池で「IEEEマイルストーン」に認定

パナソニック株式会社

パナソニック株式会社は、2014年4月12日、電気・電子・情報・通信技術の分野における世界最大の学会である米国電気電子学会（IEEE：アイ・トリプル・イー）が「IEEEマイルストーン」に認定した「日本の一次・二次電池産業の誕生と成長、1893」において、乾電池、リチウム一次電池、ニッケルカドミウム電池（以下ニカド電池）の分野での貢献を評価いただき、当社として初めての認定を受けました。

「IEEEマイルストーン」は、電気・電子・情報・通信分野において、開発から25年以上経過し、地域社会や産業の発展に多大な貢献をした歴史的業績を称える表彰制度で、1983年に設けられました。優れた技術成果とそれを生み出した技術者に対する社会一般の理解と評価を高めることを目的としており、日本では19件目の認定となります。

当社では、1931年にマンガン乾電池の自社生産を開始して以来、アルカリ乾電池、リチウム一次電池など一次電池を開発、商品化し、市場をけん引してきました。この中で、1954年には国産初となる完全金属外装缶のマンガン乾電池の開発に成功し、安全性と使い勝手の向上に貢献。主要用途であった懐中電灯に加え、ガスライター、乾電池時計、風呂ブザーなど様々な電池応用商品を自ら開発することで、需要拡大に取り組んできました。リチウム一次電池は、1971年に当社が業界に先駆けて開発し、通信機などの長時間駆動や電卓、電子時計などの小型・薄型化を可能としました。

二次電池においては、1958年にニカド電池の本格生産を開始し、電動工具などパワーを必要とする機器や、シェーバーやカムコーダなどポータブル機器の市場創出と普及を後押ししました。

これらの電池については、現在に至るまでも継続して技術を進化させており、身近な家電製品から産業用途まで幅広く用いられています。当社では、モバイル機器になくてはならない電池商品の高機能化、利便性向上を通じて、今後も社会や産業の発展に寄与してまいります。

【IEEE マイルストーン認定内容】

タイトル：「日本の一次・二次電池産業の誕生と成長、1893」

授与対象： 合資会社屋井乾電池 「乾電池の発明」
株式会社GSユアサ 「鉛蓄電池」
パナソニック株式会社 「乾電池」、「リチウム一次電池」、「ニカド電池」

理由： 合資会社屋井乾電池は1893年に屋井電池発明特許を取得し、日本の乾電池産業を誕生させ、その発展に貢献した。この偉業を継いで、株式会社GSユアサとパナソニック株式会社は、産業機器および家電製品に搭載する一次・二次電池の巨大市場を開拓し、日本の電池産業および家電産業を発展させた。

【報道関係者 お問い合わせ先】

パナソニック株式会社 オートモーティブ&インダストリアルシステムズ(AIS)社 広報グループ 電話 06-6904-4732



初期の乾電池、リチウム一次電池、ニカド電池

IEEE マイルストーン 贈呈式の様子
(左から) パナソニック(株)AIS社 伊藤社長、
IEEE Dr. Staecker前会長

【パナソニックの電池について】

●乾電池

-特長 世界11カ国で生産し、主に市販の乾電池として販売。国内No.1のシェアを持つ。

-歴史

- 1931年 大阪でマンガン乾電池の自社生産を開始
- 1954年 国産初の完全金属外装缶のマンガン乾電池「ナショナルハイパー」を発売
- 1963年 マンガン乾電池「ナショナルハイトップ」を発売
- 1967年 アルカリ乾電池を発売
- 1991年 水銀ゼロ使用マンガン乾電池を発売
- 1992年 水銀ゼロ使用アルカリ乾電池を発売
- 2008年 アルカリ乾電池「エボルタ」を発売
- 2010年 乾電池のグローバル累計生産数量1,500億個達成
- 2011年 液漏れ防止製法を採用したアルカリ乾電池「エボルタ」を発売

●リチウム一次電池

-特長 高電圧で使用温度範囲が広い特長があり、電子メーターやモバイル機器のバックアップ用途など業務用を中心に展開。グローバルNo.1のシェアを持つ。

-歴史

- 1971年 フッ化黒鉛リチウム一次電池を開発
- 1976年 電気ウキ用ピン形リチウム電池発売
- 1985年 カメラ用リチウムパック電池を発売
- 1999年 超薄型CR系コイン形リチウム電池を新開発
- 2001年 円筒形リチウム電池国内累計生産10億個達成
- 2010年 小惑星探査機「はやぶさ」帰還(回収カプセルに当社円筒形リチウム一次電池を搭載)

●ニカド電池

-特長 高出力、高耐久性といった強みを活かし、電動工具、非常用照明などで使用。プロ用電動工具用途ではグローバルNo.1シェアを持つ。

-歴史

- 1958年 ニカド電池の本格生産開始
- 1961年 日本で初めてボタン型ニカド電池を開発、発売開始
- 1964年 密閉型ニカド電池「カドニカ」の量産開始
- 1965年 カドニカの普及を目指し、自ら市場を創造した「カドニカライト」発売
- 1968年 大電流放電が可能なロール式構造のカドニカを発売
- 1970年 密閉型ニカド電池「パナニカ」開発、発売
- 1971年 高温トリクル充電が可能な防災用パナニカ発売
- 1974年 ハイパワー化を可能とするタブレス集電方式を採用したカドニカを開発
- 1994年 初の純国産大型H2ロケット打ち上げ(衛星にカドニカを搭載)
- 2005年 ニカド電池 グローバル生産累計150億個達成
- 2013年 マイナス40℃でも充放電可能な「カドニカGTシリーズ」を開発

定置式家庭用蓄電システム 「eneGoon™(エネグーン)」の新モデルの販売について

株式会社 東芝 東芝ライテック株式会社

株式会社東芝および東芝ライテック株式会社は、東芝製リチウムイオン二次電池SCiB™を搭載した定置式家庭用蓄電システム「eneGoon™(エネグーン)」の新製品2モデルを4月から順次販売します。

「eneGoon™」は、10,000回の充放電後でも約90%の容量を維持する^{注1}リチウムイオン二次電池SCiB™を搭載し、充電しながら電気製品を同時に使用できる系統連系蓄電システムです。万一の停電時にも、冷蔵庫や照明などを約12時間(6.6kWhモデルにおいて)使用することができます。また、太陽光発電と連携する場合には、「押し上げ効果あり」、「押し上げ効果なし」を選択^{注2}できます。

新製品は、コンパクト設計により、蓄電池容量は従来品と同じ6.6kWh^{注3}で、サイズ・重量を従来比の約80%に小型・軽量化し、設置性を改善しました。また、騒音値は従来比で20%以上改善し、35dB以下にすることで周辺環境への影響を低減しました。さらに、目的に応じて電気代削減・停電準備対応など4種類の選択が可能なおまかせ」運転モード、最適な使用方法に設定できる2つの「おこのみ」モードを採用し、使い勝手を向上しています。

コントローラに通信用アダプタを内蔵しているのので、東芝グループが展開するホームエネルギーマネジメントシステム(HEMS)に接続することで、スマートフォンで運転状態や充電量などを確認できます。



<蓄電池本体イメージ>

なお、蓄電池容量が4.4kWh^{注3}でサイズ・重量を従来比の約70%にした小型タイプを6月から発売予定です。

スマートメータの本格導入、太陽光発電・蓄電池・燃料電池を連動させて自動制御するスマートホーム、電気自動車と連携したソリューションの展開など、ホームソリューション市場の拡大が期待される中、新製品も各種ホームソリューション関連機器とともに販売することで、よりエコで快適なライフスタイルの提案を行っていきます。

注1 10,000回以上のサイクル寿命、室温25°C・3Cフル充放電条件の場合です。
注2 設置時に電力会社との契約が必要です。一度設置した後に「押し上げ効果なし」「押し上げ効果あり」を変更する場合は再度電力会社との契約が必要です。
「押し上げ効果なし」の場合:太陽光発電の電力は家庭内で使用し、余剰分を電力会社に売電します。売電中は蓄電池は放電せず、使用電力が太陽光発電電力よりも多い時に放電します。
「押し上げ効果あり」の場合:太陽光発電の電力を売電しているときも蓄電池は放電します。蓄電池の電力を家庭内で使用し、その分を売電にまわして売電量を増やします。
注3 電気機器が実際に使用できる電力量は、電力変換損失(定格出力時約6%)分だけ少なくなります。

【特長】

□4つの「おまかせ」運転モード

ライフスタイルに合わせて4つの使い方をご提案いたします。

①『経済おまかせ』モード

電気料金が安い時に貯めて、電気代を削減する経済的な運転モードです。太陽光発電と組み合わせることにより、さらにお得な運転が可能になります。

②『環境おまかせ』モード

太陽光発電との連携により、日中に使いきれなかった太陽光で発電した電力を蓄電池に貯めて、夕方から夜間に使用する運転モードです。自然エネルギーを活用することにより、電力会社からの買電量や環境負荷を低減することができます。

③『ピーク抑制』モード

深夜に貯めた電力を、朝と夕方の家庭内の使用電力が多い時間帯に放電することにより、ピーク電力を抑制する運転モードです。

④『停電準備』モード

急な停電に備え、蓄電残量を多めにする運転モードです。残量の少ないときには、急速充電で素早く設定量に充電します。

□2つの「おこのみ」運転モード

2つのおこのみモードで、最適な使用方法にカスタマイズできます。

①『自由おこのみ』モード

2つの独立したタイマーを自由に設定することで、お好みの充放電時間で運転できます。また、充電電力なども自由に設定でき、ライフスタイルにあったきめ細やかな運転が可能です。

②『経済おこのみ』モード

『経済おまかせ』モードでは設定できない充放電時間や充電電力が設定できるので、ライフスタイルに合わせたより経済的な運転が可能です。

＜コントローラの特長＞

シルバーフェイスを採用し、高級感をより訴求したデザインで操作ボタンと蓄電池の運転表示パネルをコンパクトに配置したコントローラです。通信用アダプタを内蔵しているため、東芝グループで展開するHEMSと接続することができます。

おまかせボタン

4つのモード「経済おまかせ」「環境おまかせ」「ピーク抑制」「停電準備」を選択できます。

おこのみボタン

2つのモード「自由おこのみ」「経済おこのみ」を選択できます。

通信用アダプタ

東芝HEMSに接続するためのアダプタが内蔵されています。



充電ボタン

充電を開始します。急速充電時間は約2時間です。

放電ボタン

貯めた電力を家中の電気機器に供給します。

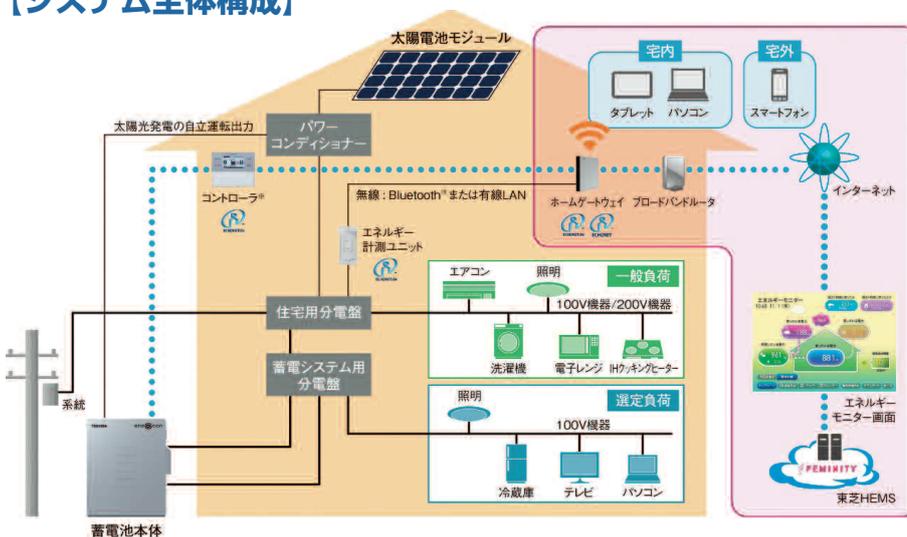
画面はイメージです。画面イメージは予告なしに変更されることがあります。

【蓄電池本体仕様および機能比較】

項目	新製品		従来品
電池種類	リチウムイオン電池SCiB™		
蓄電容量 ^{注2}	4.4kWh	6.6kWh	6.6kWh
サイズ (mm)	W780×H850×D300	W780×H1000×D300	W892×H1080×D302
質量	120kg	138kg	173kg
定格電圧	通常時：単相二線式200V 停電時：単相二線式100V		
定格出力	通常時：2.5kVA 停電時：2.0kVA		通常時：3.0kVA 停電時：2.0kVA
設置場所	屋外		
使用温度範囲	-20℃～40℃ ^{注4}		-20℃～40℃
騒音値	35dB以下		45dB
取得認証	S-JET認証取得予定	S-JET認証取得予定	S-JET認証

注4 設置地域によっては、環境条件により設置できないことがあります。設置の環境条件については販売店にご相談ください。

【システム全体構成】



エネルギーモニター画面はイメージです。画面イメージは予告なしに変更されることがあります。

【本資料に関するお問い合わせ先】

株式会社東芝 広報・IR室
吉村、沼田 TEL 03(3457)2100
東芝ライテック株式会社 総務部総務担当
秋山、鈴木 TEL 044(331)7511

【新製品に関する お客様からのお問い合わせ先】

東芝ライテック株式会社
照明事業本部 住空間システム部
TEL 044(331)0759

アウトドアで灯りとしても使える モバイル充電器「MPC-CLT6600」新発売 ランタン、LEDライト、充電の3機能

日立マクセル株式会社

mobile VOLTAGE



MPC-CLT6600BK



MPC-CLT6600GR



モバイル充電器「MPC-CLT6600」シリーズ

日立マクセル株式会社（取締役社長：千歳 喜弘、以下マクセル）は、ランタン、LEDライト機能付モバイル充電器「MPC-CLT6600」を4月28日より発売します。

- ◎スマートフォン1台を約3回充電^{*1}できる、タブレット端末も充電できる
- ◎バッテリーの残量・充電状態をLEDで4段階表示
- ◎約500回^{*2}くりかえし充電できる
- ◎ランタン、LEDライト機能搭載

スマートフォンやタブレット端末などのモバイル機器は、多くのユーザーにとってどこに行く時にも欠かせず持ち歩く生活アイテムとなっており、高性能化や高速移動通信システムの登場を背景に、携帯型補助電源の必要性が高まっています。

このたび発売する「MPC-CLT6600」は、ランタン

として、またLEDライトとしても使える新しい形のモバイル充電器です。キャンプや釣りなどアウトドアでのレジャーの場で、スマートフォンやタブレット端末を充電しながら灯りを楽しむことができます。

本体には、容量6600mAh/3.7Vのリチウムイオン電池を内蔵しており、スマートフォン1台を約3回充電^{*1}できます。ランタンやLEDライトとして使用した場合は約50時間連続点灯^{*3}できます。

本体カラーは、ブラックとグリーンの2色を用意しました。

マクセルは今後も市場のニーズに応え、モバイル充電器のラインアップを拡充していきます。

^{*1} 約3回充電:容量1500mAh相当、電源OFF状態のモバイル機器を充電する場合の目安です。

^{*2} 約500回:当社試験結果に基づく目安です。

^{*3} 約50時間連続点灯:当社試験結果に基づく目安です(満充電、機器接続なしの状態)。

【製品情報】

品種	型番	カラー	発売日	価格
モバイル充電器	MPC-CLT6600BK	ブラック	4月28日	オープンプライス
	MPC-CLT6600GR	グリーン		

【主な特長】

1. スマートフォン1台を約3回充電*1できる、タブレット端末も充電できる

電池容量6600mAh/3.7Vのリチウムイオン電池を内蔵しており、スマートフォン1台を約3回充電*1できます。また、タブレット端末も充電できます。

2. バッテリーの残量・充電状態をLEDで4段階表示

内蔵リチウムイオン電池の残量、充電状態を本体側面のLEDで4段階表示してお知らせします。



3. 約500回*2くりかえし充電できる

約500回*2のくりかえし充電ができる、環境に配慮した製品です。

4. ランタン、LEDライト機能

1W白色LED&集光レンズを搭載することにより、ランタン、LEDライトとしても使用できる新しい形のモバイル充電器です。ランタンやLEDライトとして使用した場合は約50時間連続点灯*3できます。明るさはランタンモードで約27ルーメン*4、LEDライトモードで約23ルーメン*5です。



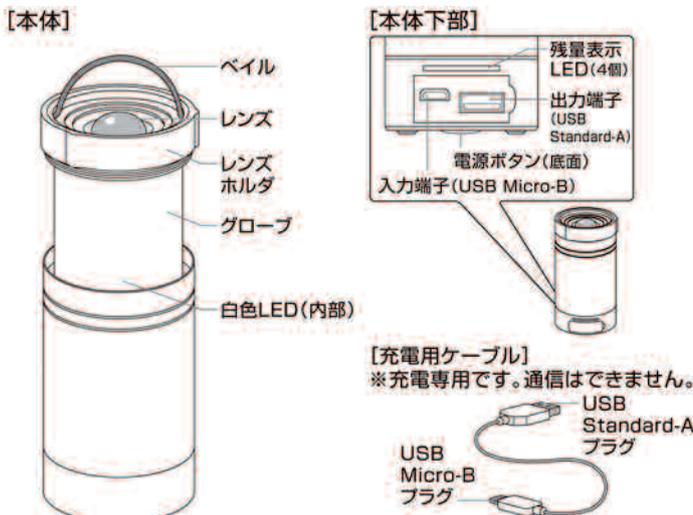
ランタン機能



LEDライト機能

*1 約3回充電:容量1500mAh相当、電源OFF状態のモバイル機器を充電する場合の目安です。
 *2 約500回:当社試験結果に基づく目安です。
 *3 約50時間連続点灯:当社試験結果に基づく目安です(満充電、機器接続なしの状態)。
 *4 約27ルーメン:当社試験結果に基づく目安です。
 *5 約23ルーメン:当社試験結果に基づく目安です。

【各部の名称、充電用ケーブル仕様】



【主な仕様】

型番	MPC-CLT6600
バッテリータイプ	リチウムイオン電池
入力	DC5V/最大1A
出力	DC5V/最大2A
本体質量	約270g
外形寸法	直径56mm×高さ110mm (突起部を除く)
付属品	充電用ケーブル (USB-USB Micro約20cm)×1本、 取扱説明書

※ 本製品は防滴・防水対応ではありません。
 ※ 製品仕様および外観は、予告なく変更する場合があります。

平成26年 4月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議 他	17日(木)	九州でんちフェスタワーキンググループ	九州でんちフェスタの内容検討。
	17日(木)	関西でんちフェスタワーキンググループ	関西でんちフェスタの内容検討。
	17日(木)	広報総合委員会	WE LOVE DENCHI、ポスター、パネル等印刷物の校正、他。
	21日(月)	統計合同委員会	自主統計業務のあり方検討、他。
	25日(金)	国際環境規制総合委員会	地域別規制動向、冊子改訂作業、他。
二次電池部会	3日(木)	産業用電池リサイクル委員会	広域認定(共同)運用マニュアル、Q&Aの作成審議。
	14日(月)	産業用電池リサイクル委員会	広域認定(共同)各社同意書審議、他。
	15日(火)	業務分科会	統計合同委員会運営報告、統計分類の新区分審議、他。
	16日(水)	国際環境規制総合委員会 欧州TT	欧州環境規制のアップデート。
	17日(木)	資材分科会	共用金型の更新検討、他。
	17日(木)	産業用電池技術サービス分科会	SBA G 0605 改正審議、他。
	18日(金)	充電器分科会	SBA G 0904 改正審議、他。
	23日(水)	産業用電池統計分科会	統計数値の確認、他。
	23日(水)	電気車用電池統計分科会	統計数値の確認、他。
二次電池第2部会	11日(金)	法規ワーキンググループ	電力貯蔵用電池規定 改版審議。
	16日(水)	LIB蓄電システムワーキンググループ	建築基準の変更審議。
	16日(水)	リチウム二次分科会	IEC61960関連審議。IEC62133関連審議。JIS C 8712改定審議。
	18日(金)	再資源化委員会	小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。
	18日(金)	据置LIB分科会	IECの原案審議。
	18日(金)	PL委員会	安全表示ガイドラインの改定審議。
	21日(月)	次世代蓄電池委員会	産業用・定置用蓄電システムの普及審議。
	21日(月)	国際電池輸送委員会	ICAオリチウム電池規制への対応審議。
	23日(水)	LIB蓄電システムワーキンググループ	建築基準の変更審議。
	23日(水)	ニカド・ニッケル水素分科会	IEC61951関連審議 2nd CD検討、他。
	24日(木)	LIB安全性技術ワーキンググループ	内部短絡試験に関する対応審議。
一次電池部会	3日(木)	器具委員会	平成26年度の活動内容検討、他。
	10日(木)	資材分科会	平成26年度の活動内容検討、他。
	17日(木)	リチウムコイン二次電池 国際規格ワーキンググループ	IEC62133の改訂のための検討。IEC新性能規格 NP検討。
	17日(木)	リチウム小委員会	IEC 60086-2 CDコメントの検討。リチウム金属電池輸送規制関係、他。
	18日(金)	規格小委員会	IEC 60086シリーズの検討、JIS C 8513改正審議、他。
	18日(金)	PL委員会	電池の安全使用啓発検討、他。
	22日(火)	業務委員会	有事発生時の救援物資提供体制検討、他。
	22日(火)	ニッケル水素ワーキンググループ	市販用ニッケル水素表示ルール検討。

2月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2014年2月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

2013年より経済産業省の機械統計は「その他の乾電池」が削除されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	328,691	66,595	106%	115%	637,884	132,242	107%	118%
一次電池計	213,254	7,434	106%	110%	408,292	13,526	108%	110%
酸化銀電池	57,343	1,033	98%	102%	129,743	2,312	105%	111%
アルカリ乾電池計	90,453	3,802	118%	119%	148,839	6,083	112%	112%
単 三	52,057	1,805	121%	115%	86,538	2,939	116%	110%
単 四	24,742	940	120%	126%	39,927	1,483	108%	115%
その他	13,654	1,057	106%	119%	22,374	1,661	102%	112%
リチウム電池	65,458	2,599	100%	103%	129,710	5,131	106%	107%
二次電池計	115,437	59,161	105%	116%	229,592	118,716	106%	119%
鉛電池計	2,810	14,660	104%	106%	5,754	29,528	106%	108%
自動車用	2,098	8,850	107%	117%	4,306	18,271	108%	116%
その他の鉛蓄電池	712	5,810	97%	92%	1,448	11,257	100%	97%
アルカリ蓄電池計	44,082	15,989	92%	92%	84,268	32,229	92%	99%
ニッケル水素	34,395	14,306	98%	92%	69,173	29,187	102%	99%
その他のアルカリ蓄電池	9,687	1,683	78%	96%	15,095	3,042	62%	92%
リチウムイオン蓄電池計	68,545	28,512	115%	144%	139,570	56,959	118%	142%
車載用	24,133	16,711	201%	193%	45,038	32,815	211%	184%
その他	44,412	11,801	94%	106%	94,532	24,144	97%	108%

2月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2014年2月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	160,379	31,985	103%	109%	327,069	60,409	111%	112%
一次電池計	79,347	2,069	105%	111%	165,577	4,079	118%	117%
マンガン	0	2	22%	24%	0	3	0%	16%
アルカリ	7,187	144	175%	200%	13,114	248	182%	209%
酸化銀	40,019	568	99%	102%	89,061	1,221	114%	114%
リチウム	31,930	1,250	104%	111%	63,091	2,492	115%	120%
空気亜鉛	201	2	183%	203%	201	2	166%	154%
その他の一次	8	102	47%	109%	111	113	86%	61%
二次電池計	81,032	29,916	101%	108%	161,491	56,330	104%	111%
鉛蓄電池	122	779	77%	92%	258	1,649	93%	118%
ニカド	6,325	522	65%	60%	8,390	751	46%	46%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	0	—	—
ニッケル水素	8,591	5,125	84%	99%	18,792	10,281	97%	111%
リチウムイオン	62,932	16,144	114%	109%	127,536	32,146	119%	113%
その他の二次	3,062	7,345	68%	125%	6,515	11,502	69%	115%
全電池合計（輸 入）	117,690	9,952	121%	107%	254,583	23,163	122%	121%
一次電池計	110,429	1,771	124%	128%	237,439	3,892	123%	130%
マンガン	10,106	122	91%	116%	24,887	304	97%	120%
アルカリ	84,684	1,092	134%	135%	181,969	2,357	135%	145%
酸化銀	292	8	122%	130%	537	16	82%	103%
リチウム	10,387	410	90%	104%	21,703	973	85%	108%
空気亜鉛	4,904	82	140%	159%	8,089	148	120%	141%
その他の一次	56	57	200%	395%	255	96	914%	104%
二次電池計	7,262	8,181	97%	104%	17,144	19,270	112%	119%
鉛蓄電池	638	2,534	100%	103%	1,422	5,574	101%	110%
ニカド	112	147	82%	100%	283	379	85%	107%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	0	—	—
ニッケル水素	1,722	464	96%	113%	3,887	1,044	95%	111%
リチウムイオン	3,195	4,292	81%	105%	8,236	10,602	101%	130%
その他の二次	1,595	744	162%	94%	3,315	1,672	236%	104%